地球全圖略説　全

特100
17
九、三、一、三
国立国会図書館　タイトル『地球全圖』 請求記号 寄別9-3-1-3
ガラス使用

題地球全圖

吳嶽江漢氏素善丹青尤好技巧嘗兼荷蘭之變波之以船球其圖畫之類模倣擬裏者不為尠焉荷蘭之國工于諸技畫圖之實其器械之便用至精至巧令人驚視其嶽嘗讀其書多傳其法就象切理之法兼多考究

特1003
17
別圖

彼邦銅版鐫刻之法乃四年至
説以造之刻製銅鐫以永施
世觀者莫不感賞匠意思鐫彼
邦所製坤輿之全圖請余所
藉西刻之一幅而摸寫之既
已銅鐫余乃日暮月池桂哭
是比來校讐諸圖業已鋭稱余
亦與焉之公余請來觀曰彼公

樣也此公銅也請試製之所若
是圖新成又請余言以後其圖
余披以観之公其畫線明而處
其影鐫工而精緻不譲西刻可
謂無以尚之焉精巧全圖精小
而彼國地形之集見其外治
處之名縷於易所載略請之以
每加以正來嶽曰老其精探其

国立国会図書館　タイトル『地球全圖』 請求記号 寄別9-3-1-3
ガラス使用

讀此者人互爲英柔能之人
國曉地輿之事唯憾殘海外之
國如瑞天竺阿蘭陀此之名而
鮮知其然之大者可謂蒙昧
者乎也余今製此圖也此備西
圖雖未盡其詳要於可之志其
梗概支那國之廣邈與夫人志
至大謂此余之末段之至余曰

善矣其於啓發人之蒙亦能並
評其圖從通以誌之
寛政壬子之冬磐水平茂質撰

茂
質

地毬全圖畧説

東都　江漢司馬峻著

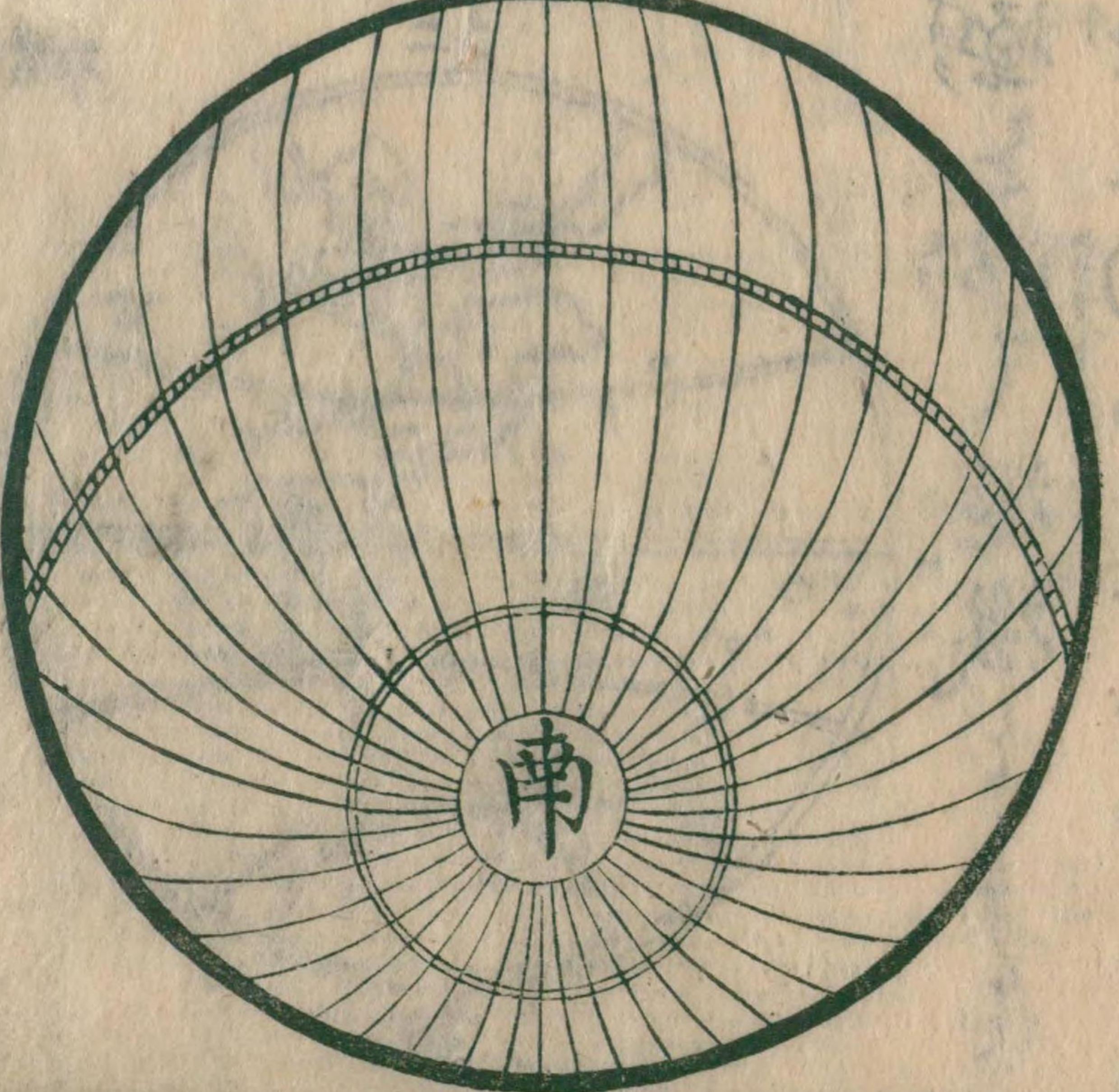
余繪事の餘暇和蘭舶の来るところの奇器畫圖の類を摹製すること嘗て彼邦銅版の法を考索し已に諸圖を新製して人に示す近ころ其法を次て萬國の圖を製せんことを思ひ彼西刻の圖を得て是を摸寫し銅版に刻す頃其圖なる者従来我國の人多ハ輿地總界のことを知る者すくなし冀ハ人ゝ

国立国会図書館　タイトル『地球全圖』 請求記号 寄別9-3-1-3
ガラス使用

此図をみて万国の大なる事を知しめん
と欲ス其精詳のごときハ識者の校訂を
俟ものなり只世の蒙生徒に授んとの
微志なるが故に此略説を附て其図を照し
見るに便ならしむる事左のごとし
夫天ハ茫々として際なきものなり故に
取て測べき物なし仍て總星の纏るを
見て象とすれバ則一の大圓となるもの歟
其衆星地を纏て圓なれバ地ハ天の正中に
ありて一の毬なり扨其地中に海と陸と有
て たとへバ一の珠に畫がごとし四面皆國なら
ざる所なし其の低き所ハ海河とし高
き所を山嶽とし平なる所を田圃とし且
人の居所となす故なり地によりて寒暖
各異なり則其國土を分て五大洲と名け
所謂亞細亞。亞弗利加。歐邏巴。亞墨利加。
墨瓦蠟泥加。なり扨其天の總星の纏る
所を以て彼星より此星に至りて天の一周
をなせる時天の總廻を得なり是を三百六十
余に割合て此一を一度と云なるも其天の三

百六十度を地に引合て地も亦三百六十
にわりて其一ツを地の一度と定む一度
ハ日本里數凡三十里許なり
斯るを云ふゆゑ地ハ平面なるものにあらずし
て圓なるを其廻を三百六十に縦横ともに
割合て天の度と地の度れ數に隨て差ふ
の大小を分て割けて其圓毬なる物を
平面にし且半を分て二圖となし
爰に地毬を畧図として度数をしめす

一度を三十里にして地の周廻一萬八百里なり



地毬を半に分て二圖とす

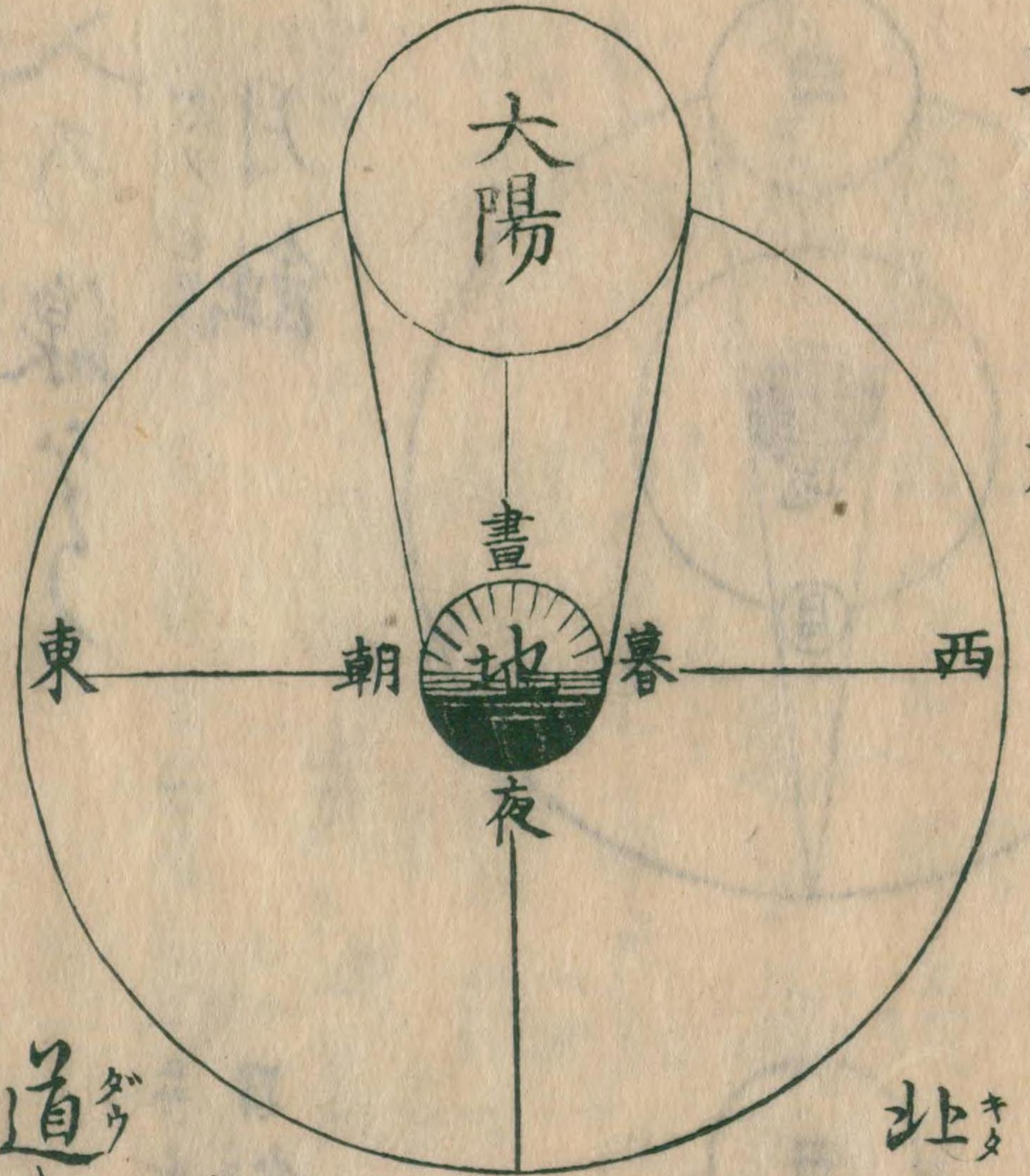
五大洲の略圖

表

裡

日ハ地を周旋して南北極を以て樞機として

東より西に旋あり日ハ地に向ふ所晝をなす



日に背く所夜となす

日正に同じ所をめぐらず春分秋分には天の

正中を旋る春分より夏至まで一日に一度づゝ

北の方へ偏めぐりて又

元の所へ至る時秋分なり

夫より南の方へ偏

旋至る時を冬至と

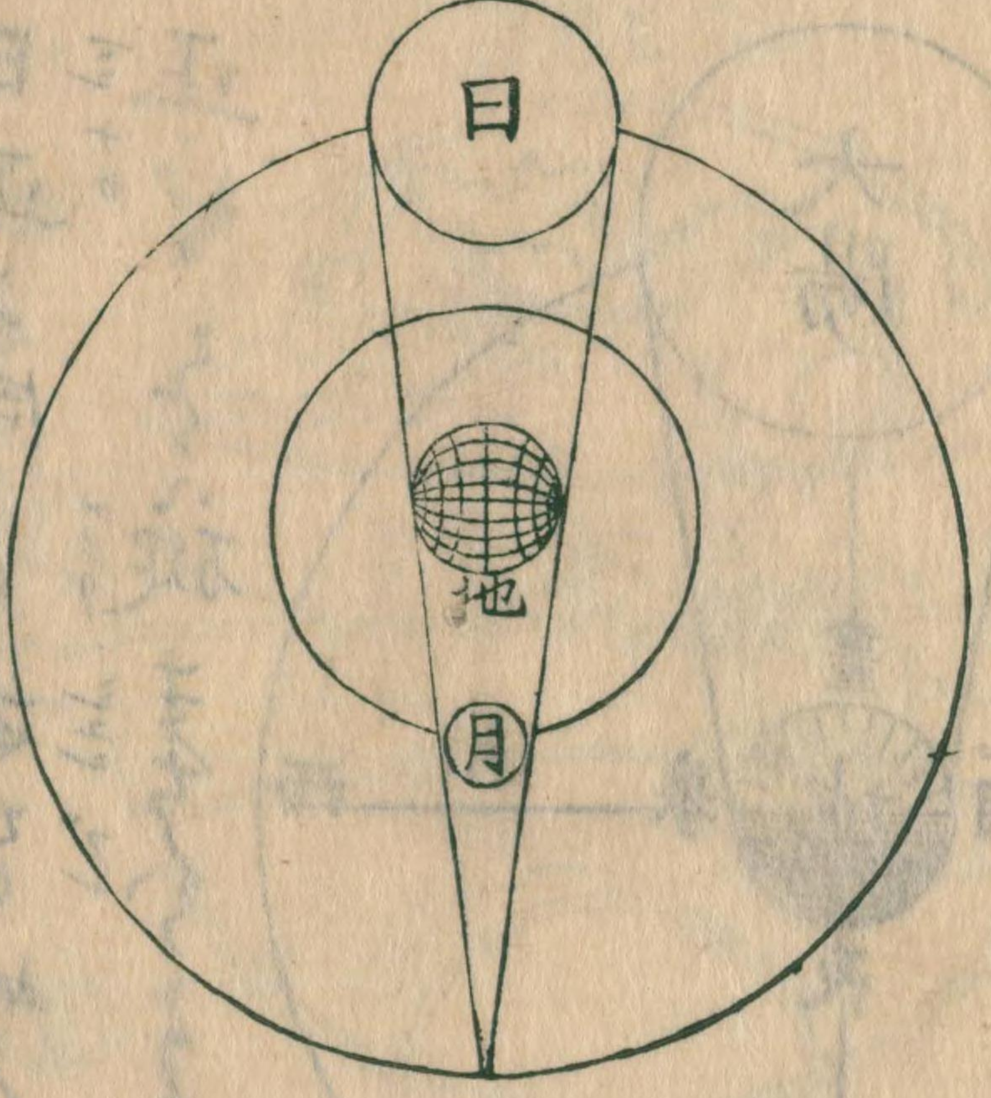
云則是を一年と

す其日の旋線を黄

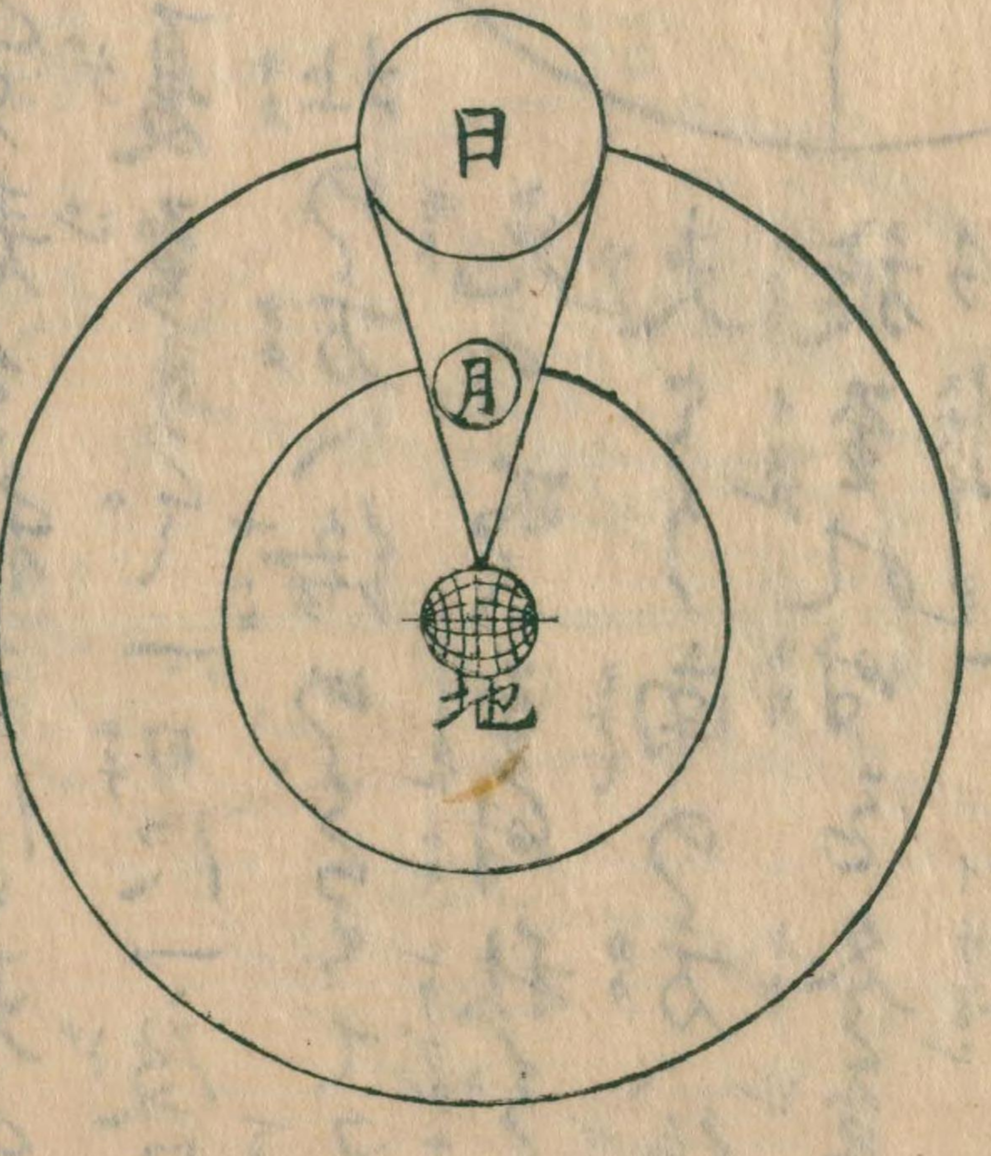
道と名づく南より出北に

入の線なり

月蝕



日蝕



月ハ一ツの水晶乃玉のごとくにて光りなき故

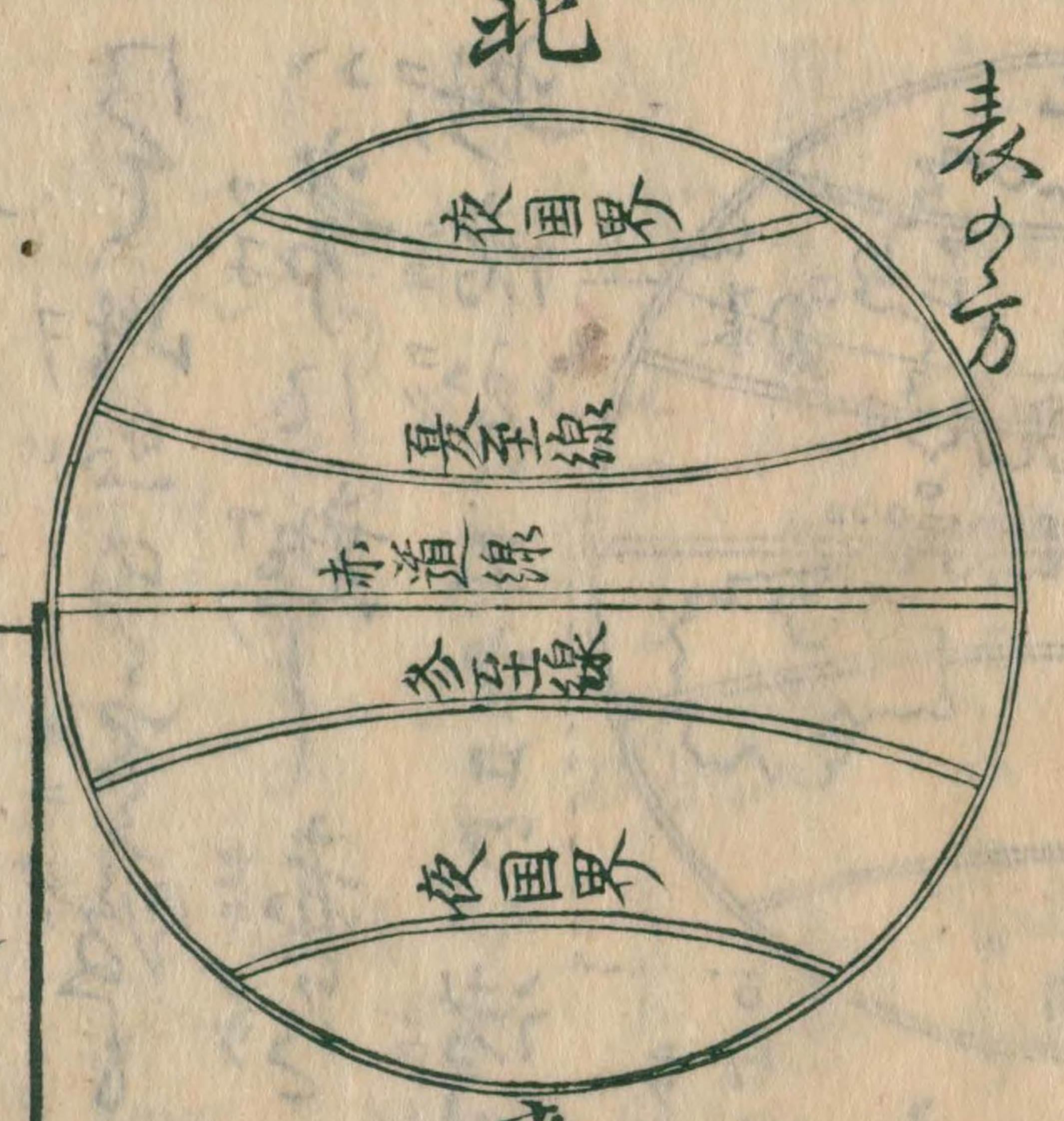
もとより日の光りを受映じ照して光を
なす月ハ地に近くしてめぐること亦も直り
黄道を行ず一月に十二度づゝ黄道乃南
に遷り或ハ六度黄道の北に遷り又ハ六度黄道
の南にうつる是を遊輪といふ日と同じ所を旋
ぐる故に行合重なる時ハ日蝕となる又
日月の間に地球隔て月地のかげに入り
塞られて月の光りを失ふゆへ月蝕となる
図を見てこれを知るべし

此日本支那等ハ亜細亜の地にして寒暖時に依て異なり則日本のごときハ北極三十六度上にありて人是をみるといへども南極ハ又三十六度地平を下り見るなれバ此圖ハ日本支那の地を上になして見るなり

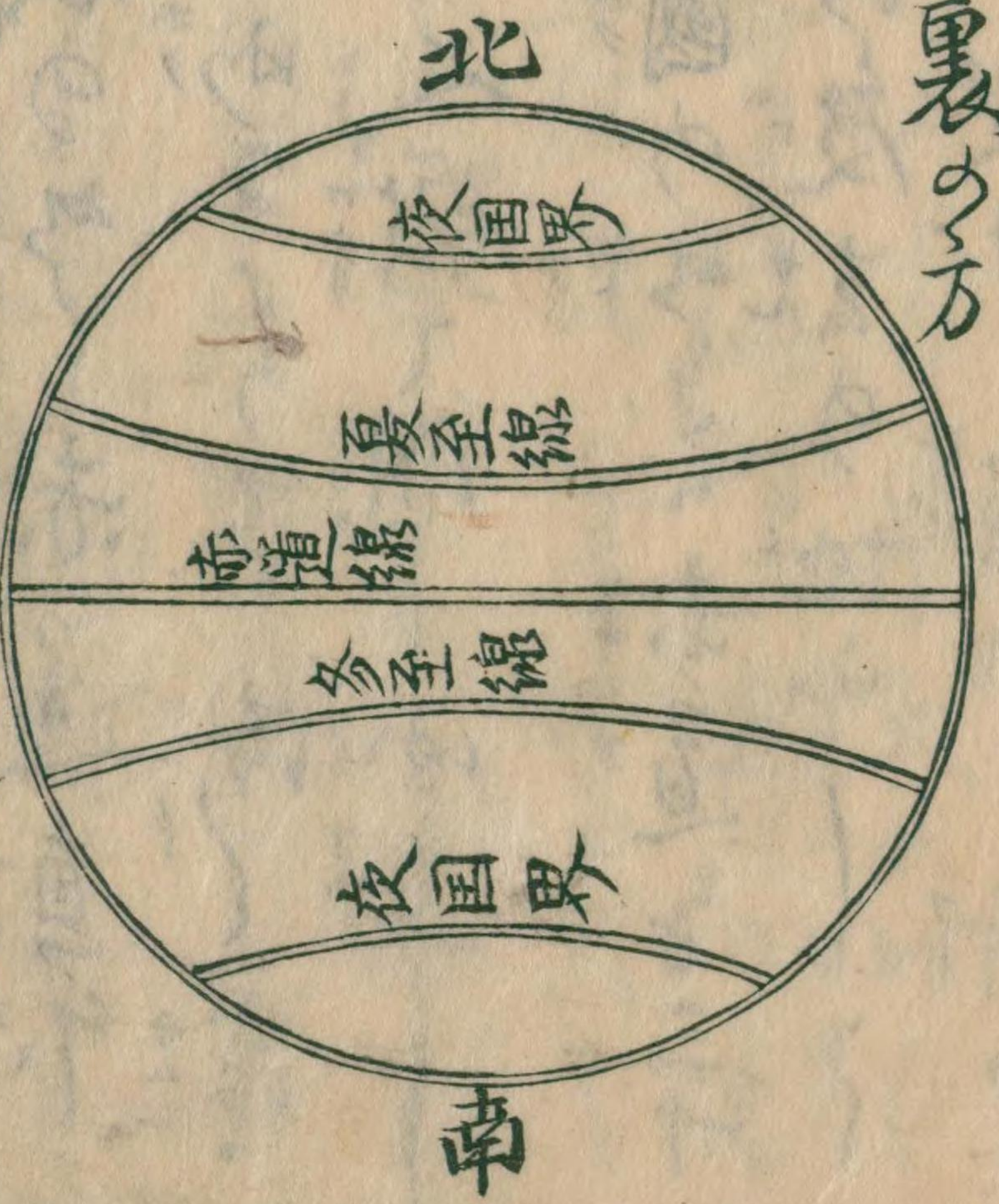
南極北極より天を半分に分てその正中を赤道と名づけ此赤道乃直下なる諸國ハ春分秋分の頃ハ日天頂を行冬至にハ日南に遷夏至にハ北に遷常に冬月なし人物多くハ賤く躶體にして單衣をまとふのミ日本の寒月ハ彼諸國より我邦の夏月のごとし皆何れも甚乃熱國ゆゑ故に物産多し五穀一年に二三度も耕し草木ハ葉おちず食物乏からずヱウロツパ諸州の人來て此諸國へ船を通じ其物産

を交易するとなり余先年長崎に遊し時彼熱国ジヤガタラ地方の人を見る則世に云崑崙奴なり人物賤しく顔色日に焦るゝ色にして真黒なりといへども蘭人の奴僕となり長崎より来る此ジヤガタラ迄も赤道直下の国なり総じて此方位よりするをインデヤ海島といふ日本の如きも薩摩琉球の方は赤道へ近き国なる故に暖土にして雪降ることすくなし又奥州の方南部津軽の地とかの方へ傾て松前蝦夷より至ては積雪山をなして夏月少く僅にして寒暖を分事かくのごとし

表の方

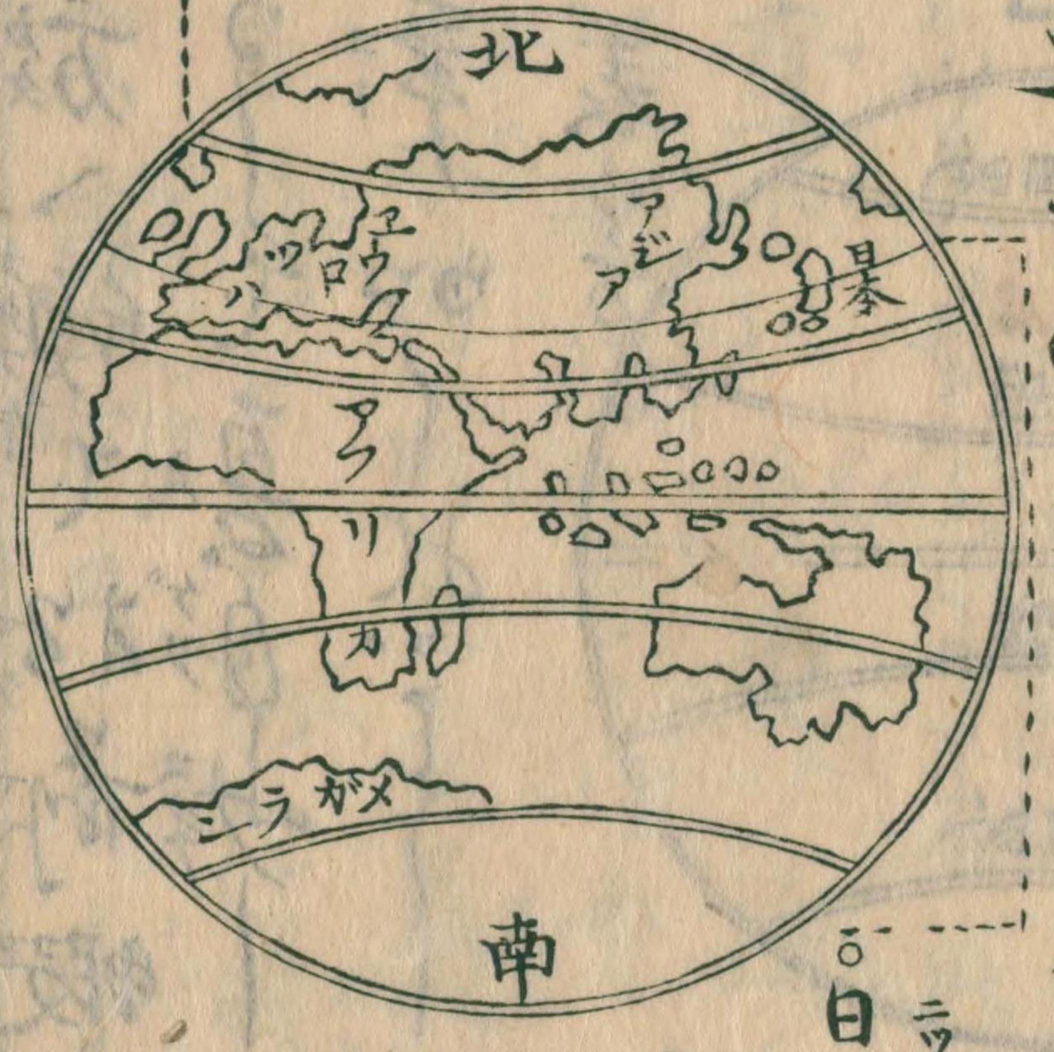


裏の方



此赤道より南北へ遷るの諸国漸々と寒さを生ずべし

アメリカ大洲も此日本の裏にあたれる国
にて此国の寒暖も表のごとく赤道直下
は常に熱し赤道より南北によりては漸く寒
此諸国はエウロツパ諸洲の人渡て開し国多し



○日本國のごときは赤道を三十
五六度去の地なれば
寒暖時節に随ひて異なり
支那の南京は日本の
肥州と同じ北京は奥州

蝦夷にひとしきのごとくにしてエウロツパ
諸洲の寒暖此度の線を推て知べし
○此界より北の方日輪の及ざるの地にして
夜国氷海と云春分のころより早天のごとく
夏至に至ては昼をなす此時に漸く日光
を纔に見る然ども日上に旋らず地に付て
周轉秋分のころは則日暮ふして日地下
に入冬至の時は夜の子の刻のごとし
春分に至るまで夜となる此国近きによりて
エウロツパの諸洲の人開て鯨猟として産

国立国会図書館　タイトル『地球全圖』　請求記号　寄別9-3-1-3
ガラス使用

業とすウニコールも則此海の産なり北極直下の地にして亦南極の方も是と同じ

○エウロツパ諸州モスコビヤ。ポログ子ア。ルテグ子。フランス。ヲランダ。イギリス。等の地ハ寒月多く夏月少し故に米穀を産せずナトリヤ。トルコ。の地のごときハ日本の寒暖と同じ此国の西ハ地中海へ出て北ハ大湖を界として甚雑用の地にして世界の宝吾国にありと誇とするなり總てエウロツパハ諸州ハ萬国へ渡りて交易をもつて第一の國務とすれバ先

天文地理を明らめ究る事を專に務とせり且ハ海船通行の為なれバ量地の術もつとも勝れり彼国の書にゼー。スピイゲル。といへる書ありゼー」ハ海なりスピイゲル」ハ鏡といへる言にして則海鏡といへる事にて萬国の船を乗るを委しく記し南北極の高低と海中の深浅を計り積れることを書けるハしるせる書なり爰に云ふがごとく両極ハ南北の樞機にして動かざる故に北の方の諸州へ渡る時ハ北極の高く低

をもつて地を計り里数を知り羅針を以て南北を分ち天の度を以て地の度を定むる地の度数を定て而後萬國の方位迄も海陸の参差を地毬に割つけゝれば目下に是を見る事となりぬ志かるに古来天地の説は地は天の正中にありて日月天を旋地を而左り旋の説にて其理数を窮る事又近来西洋の人の説には日を正中にありて地は天を旋り月を一つの世界なりして此地を中心として旋り五星も亦皆一の地なりと云説ある

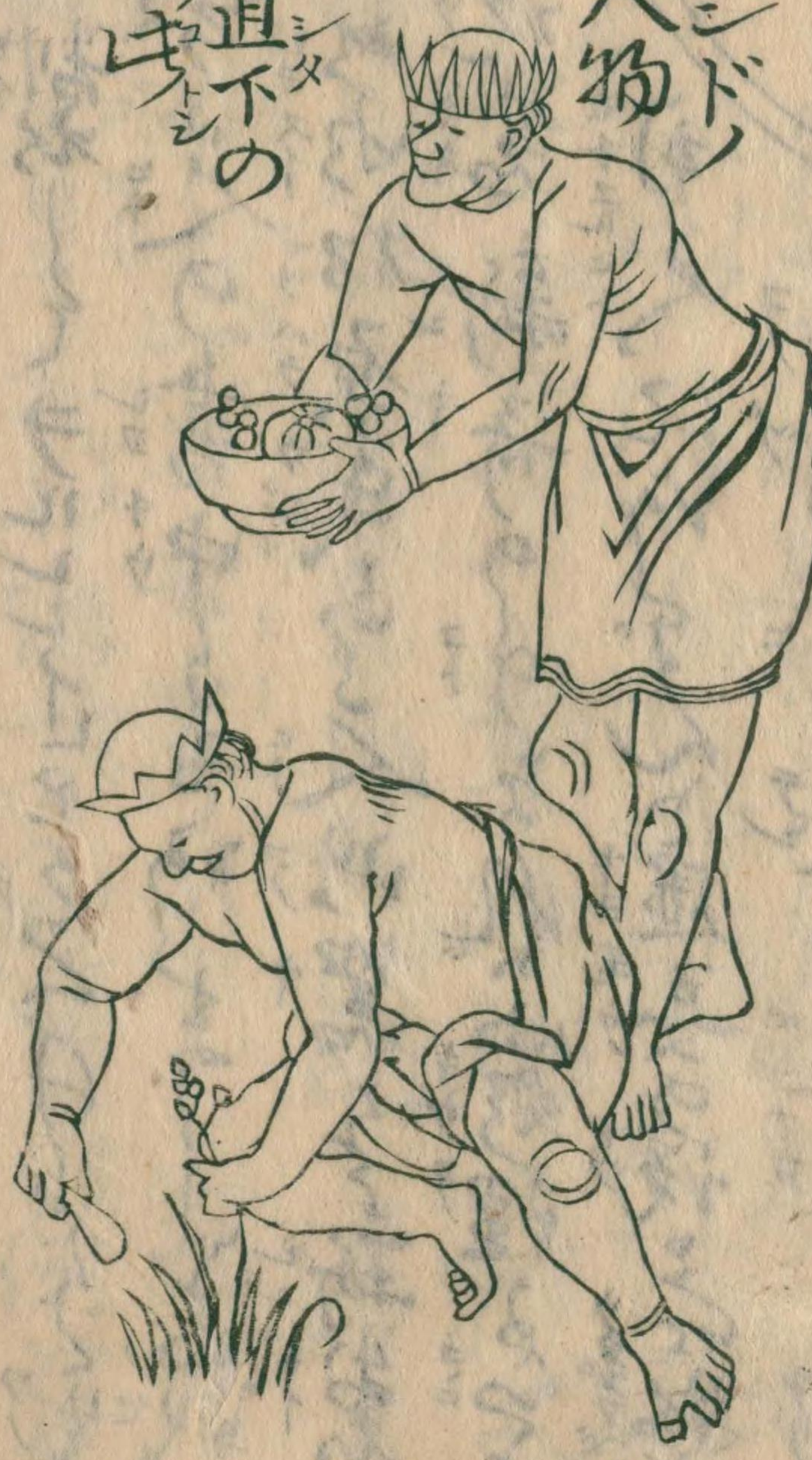
其全象を器に製して「ヲルレイ」と名づけたり其圖説はボイスと云る人の書中にも詳しく載あり余が相識なる松原氏なる人此器を新に製せんことを企つ此説甚新奇のものなれば窮理を心ざす用人にはいずれも虚妄の説と云て疑

此圖は日は天の正中にありて地月及五星の旋る線を示す（日は此地を三百六十倍大なると云説あり）全圖の委しき其説の審なるは茲に載ざるなり

扨蛮國ハ其國〳〵の言語各異なり故にその國〳〵の辞に通ぜざれバ其國の事ハ知がたき也總て蛮國の書中に奇言精説あるべけれども讀得る事あたハず唯畫圖の数類を見て推量するのミ

氷國ト熱國ノ人物ヲ圖ス

赤道直下の人皆かくの如し



氷海夜國卧兒狼徳之人物

胡泥可兒奴ハ蚌海ノ産ニシテ鯨鰐ノ類ナリ

国立国会図書館　タイトル『地球全圖』 請求記号 寄別9-3-1-3
ガラス使用

余が模製する地毬萬国の図ハ西洋の人齎
し来る銅刻の図にして精妙謀に言ふべからず然
ども諸国の地名ハ彼国の文字を以て記せる故に
通ずる者鮮し故に今吾国の假名に譯す
といへども人の未だ伝ざる名のミ多し却て混
雑あるがゆへ見分難き事を思ひ一國ごとに
州の諸名及小島或ハ港浦の名等を闕て
大國の名のミを記せり尤全図狭小にして
尽す事あたはざれバ然ども地形の参差ハ西刻
の図に倣ひ一凸一凹をも畧する事なくして

唯著ものゝミを記し専ら五大洲萬國の方位を
志るしむ然るに頃晋陽馬氏命をうけて
天文館中の地毬を補ふ故に馬氏に請て
再び地名を訂正して故に加ふる事志かり

寛政癸丑春正月

春波樓蔵刻

地毬全圖畧説終

国立国会図書館　タイトル『地球全圖』 請求記号 寄別9-3-1-3
ガラス使用

1003
17

春波樓蔵版目録

○銅版東都八景　のぞき目がね　浮画　出来

○銅版日本國小圖　近刻

○銅版異品之圖　龍　獅子　駝　ウニコル　其余異品を圖す　近刻

○和蘭奇工　銅板の仕法　油画のきゝ方　ビイドロ板の吹法　水を回す仕方　萬力の氣　其外奇工を画を以て示す　近刻

国立国会図書館　タイトル『地球全圖』　請求記号 寄別9-3-1-3
ガラス使用